

令和8年度「小代っ子」

香美町立小代小学校
R8.6.9 No.4

◆ふるさとに学び 誇りと夢をもち
心あたたかく たくましい 小代っ子の育成◆

自然学校の経験を次の成長に！

5月25日（月）から29日（金）までの5日間（4泊5日）、小代小・村岡区3小学校の4校連合で今年度の自然学校に臨みました。

毎年のことながら実施期間の天候が心配されましたが、天候も大きく崩れることなく（霧雨程度の雨は何度か降りましたが大丈夫でした）5日間とも全て晴用のプログラムを実施することができました。



～ 竹野スノーケルセンターにて ～

【5日間のプログラム】

	1日目 5/25（月）	2日目 5/26（火）	3日目 5/27（水）	4日目 5/28（木）	5日目 5/29（金）
午 前	開村式 仲間づくり	磯体験 カヌー・ カヤック体験 〔竹野〕	瀬川山登山	林業体験 ※雨プロ	片付け ふり返し 等
午 後	ウォークラリー 飯盒炊さん	※雨天時 クラフト体験	※雨プロ	トーチ棒作り スタンプの練習	閉村式
タ・夜				キャンプ ファイヤー	
泊	宿泊棟	宿泊棟	宿泊棟	宿泊棟	

林業体験から知った 香美町の現状

林業体験は、小代区・村岡区4校ならではのプログラム。この日はお忙しいお仕事の間を縫って豊岡と村岡から13名のスタッフの皆さんにご指導いただきました。

プログラムは、森や林業の仕事についてお話をいただいた後、班に分かれ小さなのこぎりで実際に1本のヒノキを間伐するという体験でした。各班とも休憩を取りながら約2時間をかけ、何とか1本のヒノキを倒すことが出来ました。なかなか切り進めていくことが難しく、本当に気の遠くなるような、また体力を消耗する作業でした。しかし、最初のお話にあったように、木が倒れると暗かった林の中に実際に陽光が差し込んでくる瞬間を体験することができ、間伐の意味を身をもって学ぶことができました。

☆この広い香美町に林業従事者はたった53人

後で調べたのですが、地元の森を守り育てる大切な産業であるこの林業に従事されている方々は香美町に53名しかおられないということが分かりました。（R2.国勢調査より）令和2年の香美町の人口（16,368 人）で単純に考えると人口比 0.33%という大変少ない人数でこの広大な香美町の山々を守っておられるということになります。



その中で13名(豊岡の従事者の方々含む)の方々が駆けつけ、子どもたちの貴重な体験をバックアップし、森を守る大切さを丁寧に教えてくださいました。スタッフの皆さんに心から感謝するとともに、「この実情を受け止め、未来のふるさとを考える子どもたちが一人でも二人でも育っていったら。」そのような願いを持った林業体験となりました。



～ 瀬川山山頂での記念撮影(小代小5年)～



～ 県下唯一の女性技能士さんによるチェーンソーでの伐採 ～

5/21(木) 引き渡し訓練



今年度も「震度5弱以上」の地震が発生した場合を基準として引き渡しの体制を整え、お迎えに来ていただくこととしております。保護者の皆様には、お忙しいところご協力いただきありがとうございます。



6/8(月)～16(火)のチャレンジは コミュニケーション・ワークショップ!

前号(5/27日号)でもお伝えしましたが、6月のチャレンジプランは、各学年ともコミュニケーション・ワークショップに取り組みます。江原河畔劇場の方に講師として来ていただき、演劇を活用した学びを体験します。村岡区3校の友だちと劇を通じ、どのような学びにつなが

っていくのか楽しみです。ご家庭でも子どもたちの話をぜひ聞いてあげてください。

「^{たけ}思いの丈 ～日々のまなざし～」

「歓声」で見つけた子どもたちの「感性」

自然学校が無事終了した。今年度の4校連合(小代小・村岡区3小)5年生の総勢は、男子十名、女子十名の計二十名。6年生の修学旅行同様に4校でのチャレンジプランの中で事前学習や仲間づくりを行い、本番に挑んだ。

天候や気象状況が直前まで心配された瀬川山登山だったが、「仲間と一緒に挑戦しよう!」のめあてのもと、各班とも4校の仲間たちと声を掛け合い、笑顔で登りきることができた。帰り道、十石山(じっこくさん)の林を抜けたところで視界が開けると子どもたちから「わー綺麗!」と歓声が上がった。

指導員の西田さんが「このポイントで景色の美しさを言葉にしてくれた子どもたちは長いガイド経験の中でも初めて。私もその声が聞けて嬉しかった。子どもたちにはとても感性がありますね。」というお言葉をいただいた。

美しい景色を見て「きれいだな」と感じる。友だちの表情を見て「何か困っているのかな」と感じる。こと。本を読んで「なぜだろう」と心が動くこと。

感性とは、物事を感じ取る力であり、感性の先には、思いやり、想像力、知性、創造力、そして、人としての生き方がきつと育っていくのだと思う。

子どもたちには、これからも多くの体験を通して豊かな感性を育み、その感性を人への思いやる心や挑戦する勇気へとつなげてほしい。「歓声」で見つけた子どもたちが持っている「感性」。今年もまた自然学校の良さを肌で感じる事ができた。

[文責: 校長 山本 秀樹]